

専門委員会 上期(4-9月)の活動状況報告

専門委員会名	主査 幹事	活動実績	活動内容
化学火災 専門委員会	主査: 田村昌三 幹事: 中村順	第1回専門委員会:平成22年7月6日 第2回専門委員会:平成22年11月9日 第3回専門委員会:平成23年3月8日(予定)	平成22年度は3回の委員会を開催する予定であり、第2回委員会までに15件の事故事例について検討を行った。事故調査を行う専門家を委員として、情報の扱いに配慮しつつ、委員が調べたり、外国の事故情報等について率直な検討を行った。また、社会に流通している化学製品の火災危険性及び将来、顕在化する可能性のある化学物質の火災危険性についても、火災予防の点から検討を行った。委員会での検討内容が工場等における安全対策に生かされることで、化学物質による火災を予防することが期待される。 取り組み 1)化学物質による火災の事例研究 ・化学物質による火災を予防するために最近起こった化学物質による火災事例を収集し、それらの火災原因を解析した結果に基づき、化学物質の危険性を考慮した有効な安全対策を議論する。 2)化学物質の火災危険性の検討 ・社会に流通している化学製品の火災危険性及び将来、顕在化する可能性のある化学物質の火災危険性について検討を行う。各年度ごとに起こる最新の事例について、過去の事例と比較しつつ検討する。
火災ガス毒性調査 専門委員会	主査: 成瀬友宏 幹事: 高橋太 仲谷一郎	第1回専門委員会:平成22年7月13日 第2回専門委員会:平成22年12月7日(予定)	平成22年度上半期においては、平成23年度に開催を予定している討論会の内容および60周年記念特集記事の内容について検討を行った。また、ISOにおける活動状況報告、火災による死者の血中のCOヘモグロビンの濃度測定結果についての報告を行った。
火災時の避難行動 専門委員会	主査: 萩原一郎 幹事: 佐野友紀	第1回専門委員会:平成22年4月19日 第2回専門委員会:平成22年5月21日 第3回専門委員会:平成22年7月2日 第4回専門委員会:平成22年9月2日 第5回専門委員会:平成22年11月1日	火災時の安全な避難計画を確立するため、今年度は以下の課題について調査、検討を行っている。 1) 避難行動予測に利用される基礎データの情報収集、整理方法の検討 2) 避難シミュレーションモデルの妥当性検証方法の検討 3) 火災安全設計のための避難行動シナリオの作成:ISOTC92/SC4で検討されている避難行動シナリオの作成に関する文書について情報を入手し、改善すべき方向についての検討 4) シンポジウムの開催:「避難シミュレーションモデルの現状とこれから -最新事例の紹介とベンチマーク-」を平成22年7月16日に実施
自動車火災 専門委員会	主査: 鈴木仁治 幹事: 渡邊憲道	第1回専門委員会:平成22年7月20日 第2回専門委員会:平成22年10月14日	自動車社会における火災安全性の向上に役立てるため、主に下記の内容について討議した。 1)トンネルの防災 2)自動車火災事例 3)ハイブリッド自動車および電気自動車のバッテリー技術 4)自動車火災の実態 火災学会研究発表会においてオーガナイズドセッション「新しいタイプの自動車における火災安全」を実施した。また、講演討論会あるいはシンポジウムの開催の発表内容について意見交換を行った。
地震火災 専門委員会	主査: 北後明彦 幹事: 岩見達也	第1回専門委員会:平成22年4月22日 第2回専門委員会:平成22年7月29日 第3回専門委員会:平成22年9月22日	地震火災特有の現象を解明し、被害軽減に役立てるため、下記の課題に取り組んでいる。平成22年度上半期においては、活動内容について60周年記念特集記事「阪神・淡路大震災から15年後の地震火災研究の現況と今後30年の展望」として執筆を行い、その内容を報告書として取りまとめる際の構成等について意見交換を行った。 1)地震火災関連情報の収集・分析 2)地震火災の被害拡大要因の解明 3)地震火災対策の提案及び評価
性能設計 専門委員会	主査: 田中哮義 幹事: 山口純一	第1回専門委員会:平成22年4月26日 第2回専門委員会:平成22年5月31日 第3回専門委員会:平成22年7月26日 第4回専門委員会:平成22年9月27日	性能設計の健全・安定的運用に資するため、火災リスクの概念を反映した火災安全設計のフレームワークの構築を目指し、下記の検討を行っている。 1)火災統計および現行法規の火災安全基準にもとづいて避難安全設計に関する許容リスクを設定する手法の検討 2)スプリンクラー設備、煙制御設備、防火扉などの防災設備の作動・不作動のシナリオを考慮し、避難リスクを許容リスク以下に保つための設計火災条件を設定する手法の検討 3)火災成長率のばらつき等の検討 4)スプリンクラー設備の作動時間の検討 5)平成22年度研究発表会(オーガナイズドセッション)での発表 6)論文集への投稿(3編)
火災原因調査の科学技術 専門委員会	主査: 萩本安昭 幹事: 田村裕之	第1回専門委員会:平成22年5月28日 第2回専門委員会:平成22年7月30日 第3回専門委員会:平成22年9月28日 第4回専門委員会:平成22年12月1日	電気火災の原因調査は判断が難しいにもかかわらず、わかりやすい教材が乏しいことから下記の取り組みを行っている。 1)配線からの出火事例を持ち寄り、調査活動上の問題点を検討した。 2)配線に残る短絡痕について、発火元となった痕(一次痕)なのか火災熱を受けた影響でできた痕(二次痕)なのかを調べた資料を収集した。 3)電気火災の調査に関係した資料を、専門委員会の成果としてどのようにまとめるかについて検討した。 4)「最近の電気火災の実態と原因調査からみた火災安全の取り組み」というテーマで平成22年度の講演討論会を実施する。講演討論会の内容の検討を行った。
消火の科学技術に関する 専門委員会	主査: 斎藤直 幹事: 尾川義雄	第1回専門委員会:平成22年7月8日 第2回専門委員会:平成22年12月7日 第3回専門委員会:平成23年2~3月(予定)	平成22年度には3回の専門委員会を開催する予定であり、60周年記念特集記事の検討のほか、消火をとりまく諸問題について意見交換を行っている。幅広い視点から議論するために、専門委員の補充も検討している。 1)火災学会60周年記念特集記事「消火の過去・現在・未来」の内容検討 2)平成23年度研究発表会オーガナイズドセッションの実施に向けた検討 3)消火剤の動向に関する情報提供
文化財建造物防災 専門委員会	主査: 長谷見雄二 幹事: 土屋伸一	第1回専門委員会:平成22年8月20日 第2回専門委員会:平成22年9月17日 第3回専門委員会:平成22年10月15日	文化庁の地域伝統文化総合活性化事業に火災学会として、「文化財の確実な継承と地域活性化活用のための防災指針の作成と普及」という事業名で応募し採択された。本事業は、文化財・伝統的建造物の防災施設・設備の計画資料、文化財の火災対策指針、文化財防災マネージャー養成プログラムなどを約3年で整備する計画である。これを受けて本年度は「平成22年受託事業実行委員会」として活動を行っている。 平成22年度の事業計画は、①文化財建造物の火災リスク調査、②「文化財の火災安全計画資料集」の作成、③文化財建造物の火災安全計画ケーススタディを実施するものである。 ①では、文化財建造物の火災性状を把握する必要があるという観点から、木造家屋の実大火災実験など既往研究資料の収集を行うとともに、文化財建造物の火災事例を調査している。②では、文化財建造物を守るという観点から、現状の防災設備について、どのような場合に有効か、どう設置すれば良いか、性能等に関してどのような設計をしているのか、更にどう使えば良いか、といった点について資料収集している。③では、文化財に指定されている某旅館(神奈川県)とお寺(長野県)の現地調査を行う予定である。